

【会員だより】

私のキャリア

京都大学大学院医学研究科 田中 千香子(短大4回生)

今回、今までのキャリアについてお話してほしいと依頼があり…振り返ってみました。なんと、就職活動の連続のような技師生活！恥ずかしながら私の履歴書をお話しさせていただきます。

卒業後は、非常勤として京都大学医学部附属病院に就職し、3年後には任期満了。次の大阪大学医学部附属病院には17年お世話になりましたが、夫の転勤に伴い退職。新天地の東京でも生活が落ち着くとハローワークに通い診療放射線技師としての生活を続け「常勤にならない？」と契約書を交わしたすぐ後に、今度は静岡へ。こちらでも転居2か月後には静岡県立総合病院で働き始めました。そして3年後、振り出しへ戻るかのように京都に戻り、現在は京都大学大学院医学研究科でお世話になっています。

キャリアを積みたくて転職しているわけではなく、必要に迫られての転職。辞めたくて辞めた職場はなく、いつも後ろ髪を引かれています。

でも新しい職場には、常につわもの達との素敵な出会いもありワクワクします。

- ・新人1日目には、「仕事はすぐ覚えるから、一日も早く自分の研究テーマを見つけてね」と激励する上司。
- ・2人目の育休が終わり出勤した一週間後には、「科研費の締め切りが近いから早くね」と親切で熱心な先輩。
- ・「新しい装置と部屋を用意したから」と新規健診業務を任せてくれる太っ腹な事務長さん。
- ・「お絵描き好き？」と研究室に誘う技師長さん。
- ・目の前のことを楽しむだけで精一杯の私に、プレッシャーと達成感を与えてくれる猛者たち。

一部しかご紹介できないのが残念ですが、今の私があるのも彼らの何気ない一言かもしれません。

こうして考えてみると、母校で学び得た放射線技師という国家資格は、いつでも私に仕事と刺激と充実感を与えてくれます。どんな経験も財産で、常に繋がりを実感する今日この頃。感謝の気持ちで一杯です。

ありがとう！

キャリアとは、広義では「生き方」、仕事においては経歴や経験のこのようです。私自身は、キャリアを積んでいるのか、薙倒しているのかわかりません

が、楽しんでいることは間違いなさそうです。私の就職活動は、きっとまだ続くでしょう。いつでも、どこでも、誰とでも、一緒に楽しく働けるよう今日も精進したいと思います。

以上

* 通巻 243 号 2022 年 4 月 10 日発行(2021-No.1 より)